

世界が抱える問題の根源に目を向けて、 現地の人々と共に歩んだ30年

足りないものをあげるのではなく、つくる方法を一緒に考える。紛争で傷ついた人を助けるだけではなく、紛争を起こさない道をつくる――。問題の根源へ根源へと深化してきた日本国際ボランティアセンター（JVC）の取り組みは、今、世界9か国で着実に根付いてきています。

難民支援から世界の問題へ

JVCの設立は1980年。インドシナ難民の惨状を知り、難民キャンプのあるタイに駆け付けた若者たちを中心に活動が始まりました。カンボジア難民のキャンプからラオス難民、ベトナム難民の支援まで、活動は多岐に渡りました。その活動が国連からも評価され、設立から4年程たった頃からはソマリアやエチオピアでの活動も開始しました。

しかし、難民支援だけでは問題は解決しません。難民を生む原因となっている紛争や環境問題などの複雑な構造

に目を向け、その解決に向けた取り組みが必要なのです。そこで、80年代中頃からはカンボジア国内での活動を始め、エチオピアやソマリアでは医療支援などから、より息の長い農業支援に取り組むようになりました。

90年代――「持続可能な開発」へ

「JVCの発足から10年が過ぎた90年は、日本のNGOが国際協力の担い手として社会的なステータスを確立し始めた年でもありました。特に91年のカンボジア和平を機に、80年代からカンボジア国内で活動を続けてきたJVCの活動が注目されるようになりました」

タイ 地域開発



タイ・ボン郡の朝市。JVCと地元農家が始めた朝市は、町の行事として根付いている

た」というのは、事務局長の清水俊弘さんです。JVCの会員数も10000人の大台に乗り、政府に対する発言力も高まってきたといいます。

「92年のブラジル・リオデジャネイ

口での地球サミットでも、NGOが地球規模の環境・開発課題に取り組む重要なアクター（実践者）の一つとして認知度を高めることになりました。このころから、『持続可能な開発』ということが言われ始めます。途上国の人たちの生計を持続的に安定させるにはどうしたらいいか――。JVCの活動も、現地の人たちの力によってより長く活動が続けられるように、日本人によるボランティアから現地スタッフによる持続的な取り組みへと体制をシフトしていきました」（清水さん）

インフラを支えた地球環境基金

「紛争や災害などの緊急支援とは違い、環境問題や開発問題には、地道で長期的な取り組みが求められます。し

カンボジア 地域開発



小学校で実施している植林活動。環境教育だけでなく、子どもと大人の交流の場にもなっている



◀ 米の収穫量を増やすための「幼苗一本植え」の研修を受ける農家の人たち（カンボジア）

かし、一般からの寄付が集まりづらく活動の継続性を担保することが困難でした。そのような中、地球環境基金の助成を受けることで、活動効果を持続させる仕組みづくりをやり遂げる事ができたのではないかと思います。

また、その成果の積み上げが組織の信用につながり、会員や寄付者が増えるという好循環を生み出すことができました。95年には会員数は2000人

を超えました」（清水さん）

人々に根つき、広がる活動の効果

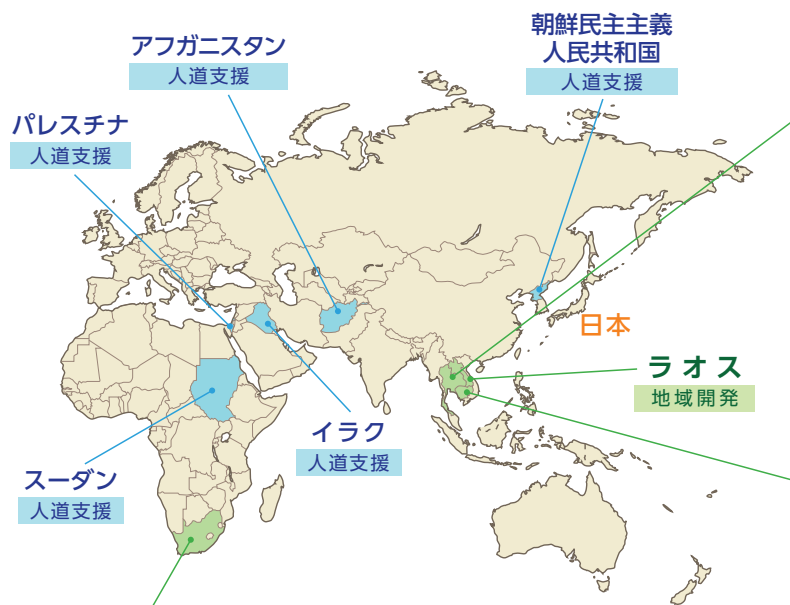
「地球環境基金には人材育成のための研修・セミナーといったすぐには効果が見えにくい活動を理解、支援してもらえました」と話すのは、カンボジアで10年間、農業研修の活動を行ってきた山崎勝さん。

「カンボジアでは、農薬や化学肥料を利用しないで稲の収穫量を増やすため、幼苗一本植えという農法の研修を行っています。35村を対象に活動を始めたのですが、最初は研修に参加する農家も50世帯ぐらいと少なかったですね。助成によって活動を継続できたおかげで、研修を受ける農家が増え、ほかの村でもやってほしいという声があつて、今では63村に広がりました。把握しているだけでも650世帯くらいが研修で学んだ方法で農業を始め、収穫量を上げています。研修を受けた人が学んだことをほかの人に教えたリ、近所の人に野菜の種を配ったりして、新しく始める人たちが増えていきます。人材育成が着実に根付いてきているなど感じています」（山崎さん）

「タイでも、10年くらい前に助成していたんだけど、有機農業に取り組

む地域の生産者が主体となって、農産物を直売する朝市をやり始めたのですが、それが今でも町の行事として残っているんです。そこでの活動が終わっても、効果が持続して一つの成果になっているのだと思います。

途上国では、農家が、外国に売るための換金作物をつくり、自分たちの生活は困窮しているという状況があります。そうではなく、自分たちが食べるための農業を営んでもらう。地産地消という地域循環、そういう仕組みづくりに結びつくような活動を、今後も目指していきたいです」（清水さん）



南アフリカ 地域開発

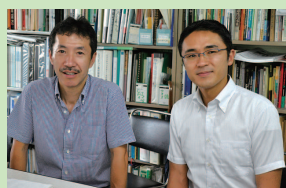
HIV 陽性者がお金をかけずに栄養をとれるよう、菜園づくりの研修を実施



特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター（JVC）

〒110-8605 東京都台東区東上野 1-20-6 丸幸ビル6F
<http://www.ngo-jvc.net/>

急激な変化にさらされているアジアやアフリカなどの農村で環境保全型の農業を通して地域開発支援を行うほか、紛争の影響を受けて人々が暮らす地域では医療をはじめとした人道支援を行う国際協力 NGO です。



事務局長の清水俊弘さん（左）とカンボジア事業部の山崎勝さん